

香取遺産

Vol.96

圓生涯学習課

☎(50)1224

馬頭観音
ばとうかんのん
馬に乗った観音様



▲編玉神社(阿玉台)脇の馬頭観音



▲観音寺(向油田)の馬頭観音

路傍や墓地などで、馬に乗った観音像を彫った石仏を見かけることがあります。これは、馬頭観音と呼ばれるもので、江戸時代に当地方に多く建てられました。

馬頭観音は、ヒンドゥー教の最高神の一人ヴィシヌが馬に化身して、悪魔に奪われた聖典を取り戻したという説話が起源とされています。これが仏教に採り入れられ、衆生の煩惱を排除し、諸悪を打ち破る観音菩薩となったものです。

我が国では、平安時代以降の仏像や仏画にその姿が見られます。頭上に馬頭を頂き、手は馬口印(馬頭印)と呼ばれる印相を結びますが、剣や蓮華を持つ例も見られます。また、他の観音が女性的で穏やかな表情(慈悲相)であるのに対し、馬頭観音は目尻を吊り上げ、牙をむき出した忿怒相です。このため、馬頭明王などとも呼ばれ、菩薩ではなく明王に分類されることもあります。

江戸時代になると、馬を農耕や荷運びなどに使うことが多くなります。馬頭を頂いた観音様の姿を見て、馬とともに生活する人々の中に、馬に対する民間信仰が生まれました。農家では農耕馬の、馬の産地では生まれた仔馬の無病息災を、荷運びの人達は道中の安全を願い、また亡くなった馬の供養のために、馬頭観音が全国各地に建てられます。

写真で紹介するのは、馬に乗った観音像で「馬乗り馬頭観音」とも呼ばれます。県内に数多く建てられ、主に、香取市を含む東総地方と東京湾沿岸地方に分布します。観音像が馬上に座るものと跨るものの2種があり、像容が慈悲相となるものもあります。

現代では、競馬場の近くに、病気やレース中の事故で亡くなった馬を供養するために馬頭観音を祀ることがあります。また、向油田地区の観音寺の堂内には木造の馬頭観音が祀られ、今でも競馬ファンの参詣が絶えません。